

# のり海況速報 第12報 (22-12)

平成23年3月11日発行  
千葉県水産総合研究センター  
東京湾漁業研究所  
千葉県農林水産技術会議

資料 のり海況調査 (3/8 : 内湾, 3/4 : 内房北部)  
関東・東海海況速報 (2/21-3/11), 東京湾口海況図(3/11)

## 【水温・塩分の状況】

内湾から内房北部海域の表層水温(図1, 2)は依然横這い状態が続いており、9~13℃台になっています。

塩分はほぼ全域で30~33台半ばとなっています。

一方、黒潮は依然変動しており、現在(3/11)八丈島付近から北上し三宅島付近を通過して、房総半島南東岸をやや接岸しながら北東方向に流れているもよう。

2月下旬に、大島西水道から相模灘・東京湾口に向かって波及していた暖水は弱まり、本日(3/11)の東京湾口海況図によると、金谷から久里浜間を結ぶラインの水温は13~14℃台になっています。しかし、今後もこの動きには注意が必要と思われます。

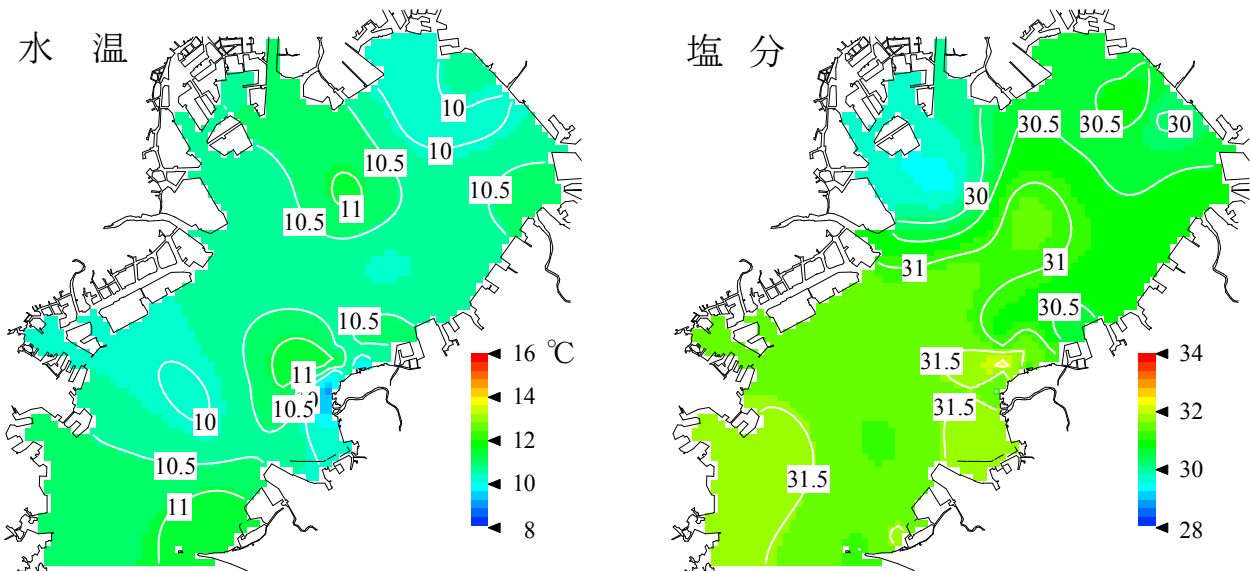


図1 表層の水温・塩分分布 (内湾 : 平成23年3月 8日)

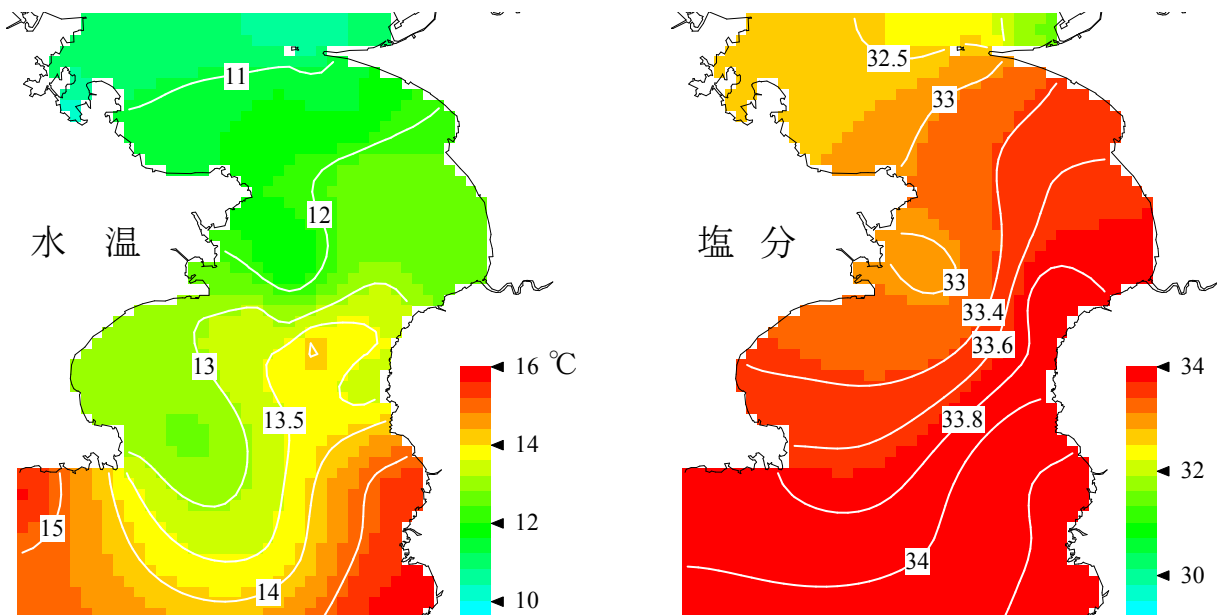


図2 表層の水温・塩分分布 (内房北部海域 : 平成23年3月 4日)

### 【赤潮・栄養塩の状況】

2月下旬に発生した赤潮はほぼ終息し、現在ほぼ全域で発生していません。しかし、湾奥部ではpH 8.4、透明度 3m台を示し、水色もやや褐色を帯びていました。

優占種は依然全域で最もノリの色落ち被害をもたらすユーカンピアで、湾奥部ではやや多い状態です。

表層の栄養塩(図3, 4)は窒素、リンとも全域で十分あり、現状ではノリ養殖にとって問題のない量です。しかし、現在優占しているユーカンピアの動きには今後も注意が必要です。

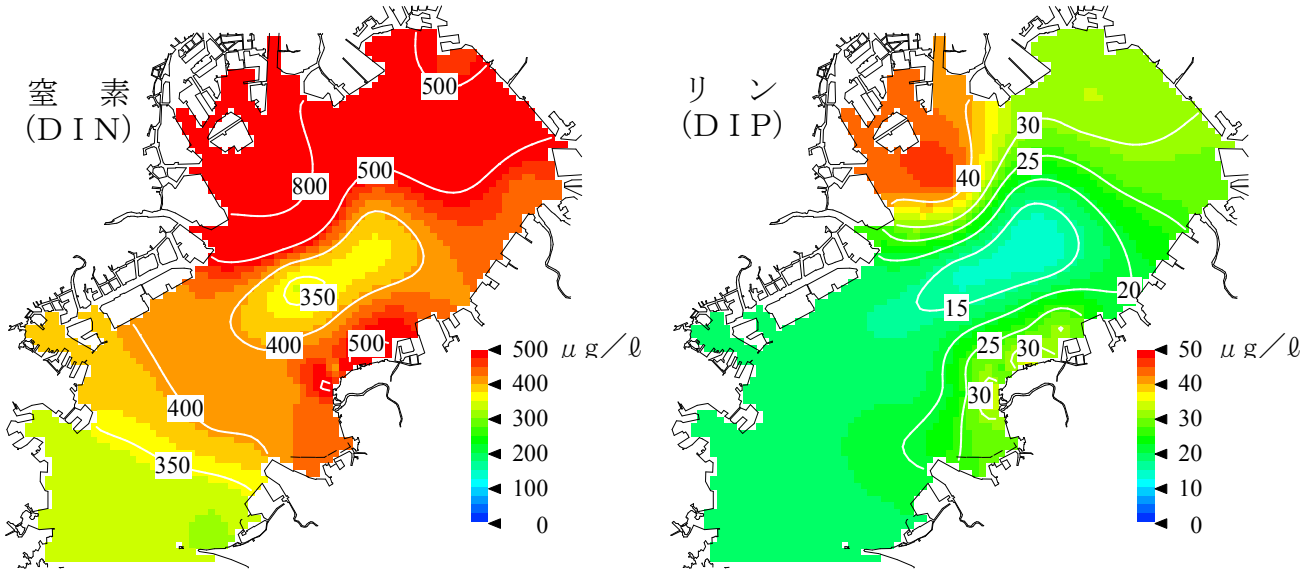


図3 表層の栄養塩濃度の分布 (内湾 : 平成23年 3月 8日)

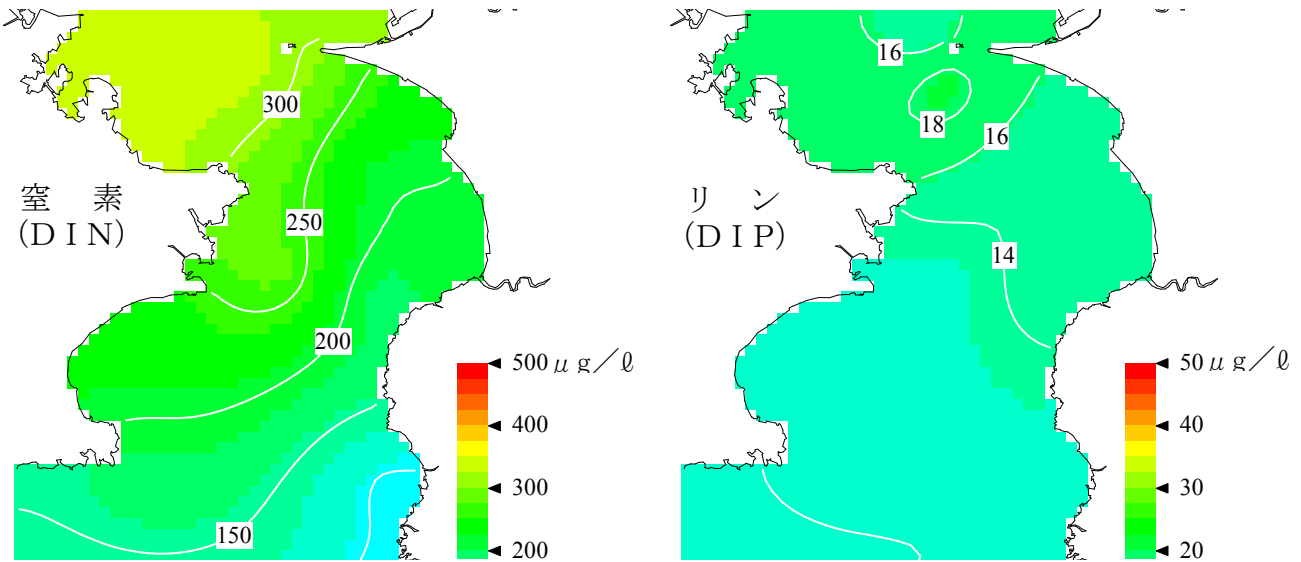


図4 表層の栄養塩濃度の分布 (内房北部海域 : 平成23年3月 4日)

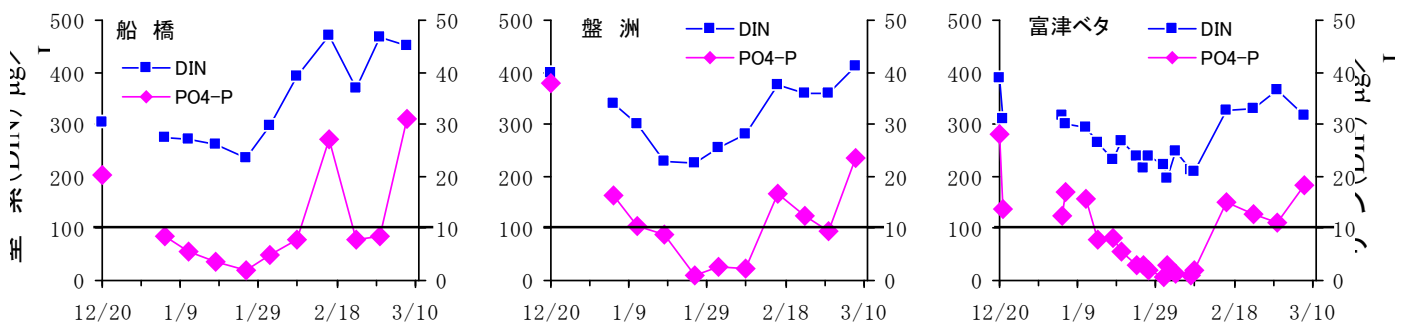


図5 各地先の栄養塩濃度の推移 (表